

## 他会の皆様方から頂戴したメッセージ

おかげさまで、神戸ドルフィンズは、全国大会・マスターズ大会・定期戦あるいは親善試合などを通じて、他会の野球部の皆様方と温かい交流を続けてまいりました。とりわけ井口寛司選手は、野球選手としての能力は言うに及ばず、替え歌の名手としても全国的に名を馳せ、皆様方へたいへん愛されました。そのような関係性もあって、他会の皆様方から井口寛司選手を偲ぶメッセージを多数頂戴しておりますので、以下にご紹介させていただきます（順不同）。

### 捕手・井口さん

札幌弁護士会 弁護士 吉川 正也

井口先生が亡くなられたと聞いて、にわかには信じられない気持です。

マスターズ大会に、神戸チームから、藤本先生と井口先生のお二人で良く参加して頂きました。

札幌で行われるマスターズ大会に、神戸からおいで頂くのは、大変だったと思います。大会に出場して頂くと、いつものようにやさしい目が、メガネの奥で微笑んでいて、野球を楽しんでおられました。

私が、井口先生を知ったのは、いつの頃だったか、札幌で全国大会を開催した頃だったでしょうか。神戸チームの強肩で、しかもバッティングの良い選手ということで、井口捕手が記憶に残ったと思います。井口先生の捕手の姿は、構えが美しいと感じます。背筋が伸びていて、しかも、ワンバウンドなどを逃がさない技術は、美しかったと思います。

そんな井口捕手が、マスターズ大会に、何回も参加頂いたことは、とてもうれしいことでした。

日弁連野球30年史において、各野球部の紹介や思い出に残る名場面を記事にして下さるようお願いしたことがあります。神戸チームからは、長文の原稿を頂きました。それは、井口先生と藤本先生が作られたたくさんの替歌の歌詞でした。頂いた替歌の一つ一つに、その時のチームや試合の状況が描かれていました。記念誌には、その全てを掲載させて頂きました。

そのあとも、マスターズ大会での替歌も毎回、披露して頂いていました。こうした替歌のほとんどを、井口先生が藤本先生と一緒に作られていたのです。井口先生は、弁護士、捕手、強打者であるとともに、詩人でもあったのだと思います。

井口先生が、また、マスターズ大会に来て頂けないのは残念ですが、先生の野球に対する思いは、これからも、引き継がれていくものと思います。

井口先生、ありがとうございました。

**（編集部注：吉川正也先生は、2011～2016年度、日弁連野球連盟の会長を務められました）**

# 井口寛司先生を偲んで

神奈川県弁護士会野球部 横浜マリナーズ

瀬 古 宜 春

井口寛司先生が亡くなられたことを知ったのは、2022年の7月8日のことでした。7月8日と言えば、安倍晋三元首相が銃撃されて死亡した日でしたが、私にとっては井口先生の訃報の方がはるかに大きな衝撃でした。

井口先生と私は、井口先生が神戸、私が横浜ということもあって、日常的な接点はなく、あくまでも野球を通しての関係でしたが、未だに「球史に残る」と言われている2000年の名古屋決勝大会での横浜と神戸の死闘を契機に始まった「三港対抗戦」や全国決勝大会の懇親会、札幌つどーむで行われる「マスターズ大会」などを通して親しく交流させていただいておりました。

特に全国決勝大会での藤本尚道&井口寛司のコンビによる「替え歌」は【絶妙】で、常に全国決勝大会の懇親会の華でした。今では【この「替え歌」なくしての懇親会はあり得ない】とまで言われるようになっていましたので、これから藤本&井口のコンビによる替え歌が聞かれなくなるのは寂しい限りです。相棒を亡くした藤本先生のことを心配ですが、これからも藤本先生には「ピン芸人」として替え歌を披露して欲しいと思います。

井口先生は、藤掛伸之先生がドルフィンズを去った後のドルフィンズの捕手として、守りの面では寛宗憲先生、幸寺寛先生、茂木立仁先生などの投手陣をリードし、打撃面でもドルフィンズを中心打者として活躍され、特に捕手としてボールを取ってから投げるまでのスローイングの素早さと（座ったままで二塁に送球することもできましたね）、送球の正確さで対戦相手を警戒させました。

井口先生と最後にお会いしたのは、2019年11月23日に札幌つどーむで開催された「第7回マスターズ大会」になります。記憶は定かではありませんが、藤本先生と井口先生にはフル出場してもらったと思います。お二人とも私の起用に応えて、元気に澆刺と試合を盛り上げてくれました。今も、そのときの井口先生の元気な姿、そして懇親会で藤本&井口コンビの「優しいつどーむ」（NHKの朝ドラ「なつぞら」）、「三川屋」（居酒屋）、「虹と夢のバラード」を歌う姿が目に残ります。

最後になりますが、井口先生が亡くなられた後、井口先生の弁護士としての業績の凄さを知りました。野球を通じてとはいえ、そのような弁護士と親しくさせていただいたのは私の誇りであり、井口先生の弁護士としての業績は、横浜マリナーズのみんなにも紹介させていただきました。

井口先生、本当にありがとうございました。ゆっくりお休みください。

（編集部注：瀬古宜春先生は、2022年度から、日弁連野球連盟の会長に就任されています）

# 井口選手の思い出

広島オーリンズ総監督兼投手

爲末 和政

井口選手と初めて会ったのは、もう30年も前、1991年（平成3年）8月31日、広島の「ひろぎんの森野球場」で行われた第11回全国大会予選での神戸ドルフィンズ戦です。

我が広島オーリンズにはオーナーが存在し、木村オーナーは、野球部創設のころからのスコアブック等を調査し「記録集」を作成されました。この一戦も記録されています。井口選手は5番左翼手として出場していますが、その活躍については、「記録集」から、以下のとおり引用いたします。

## 【引用開始】

7回表、先頭の5番井口が左前打で出塁した後すぐ盗塁し、6番幸寺の三ゴロで三進し、7番渡部の二ゴロの間に生還してついに同点に追いつかれたが、その裏、先頭の爲末がよく選んで四球で出塁すると、トップに帰って坂本の打席のとき二盗し、直後坂本が期待に応じて左翼へライナーを放てば、これを左翼手井口がはじき（記録はヒット）爲末がホームを踏んでサヨナラ勝ちで神戸を下した。

## 【引用終了】

井口選手は、不敵な感のある幸寺投手とは違い、爽やかなすらっとした好青年という感じでした。

井口選手は敗戦にもかかわらず後にこの一戦を、津軽海峡冬景色であったと思いますが替え歌（ひろぎんの森夏景色？）にして当方と同期同クラスの親友藤本選手と披露されたのを覚えております。場所は覚えていないのですが。

井口選手は、この一戦では左翼手でしたが、第14回全国大会の神戸大会（グリーンスタジアム神戸）で神戸ドルフィンズと準決勝で対戦した際には遊撃手でした。その後、捕手に転向され、膝をついたまま二塁に送球したのを驚きの目で見たと覚えています。凄い強肩でした。

5年位前でしたか、その凄い井口捕手と、札幌で開催されたマスターズ大会において、ともに西軍に属しバッテリーを組ませてもらったのは望外の幸せでした。

末筆ではございますが、生涯野球を愛してくれた我が同志、井口選手のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

# 悲しみを超えて

名古屋ローヤーズ

山下 勇樹

当チームの富島照男先生はじめ日弁連野球黎明期を支えて下さった方々の訃報が相次ぎ、人の命の<sup>はかな</sup>儚さへの無常観と故人への感謝の念が胸中から去らないうちに、突然、井口寛司選手の訃報に接しました。

えっ、なんで、順番が違う、と思わず天を仰ぎ唸ってしまいました。

ほぼ同年代で、同じ時期をご一緒し、これから昔話をしながら弁護士野球を楽しんでいける、と思っていたのに、残念で仕方ありません。

あらためて哀悼の意を表します。

井口選手は、ノックの上手さは別として明るくチームをまとめておられている藤本尚道先生ともども、神戸ドルフィンズの静かなムードメーカーでした。寛、幸寺という私の強そうな個性的な投手をニコニコしながら上手くリードしていました。私は幸寺投手からヒットを打った記憶がありませんが、これは井口捕手のリードのせいだと思っています。

いつかは幸寺-井口のバッテリーからヒットを打ちたいと思っていましたが、それも叶わぬ夢となりました。井口捕手がリードしない幸寺投手は、もう与し易しでしょう。

井口選手と言え、なんと言っても藤本先生との替え歌です。毎回楽しみにしていました。

短い時間で、その日の出来事を的確かつ面白く、元々の歌詞を効果的に利用して、上手に元歌に落とし込めるな、といつも感嘆していました。

平成28(2016)年のマスターズ大会で、初めて題材に取り上げていただきました。光栄でした。「花束を君に」の替え歌で、冒頭「普段から練習しない君が 札幌だけは来る」とのフレーズは秀逸です。

普段の練習とかはもういい！ともかく昔の仲間（もちろん井口選手もそのお一人）、自分に会える札幌だけには絶対、行くぞ！そのとおり！と我が意を得たり、そう観察してくれただと、とても嬉しかったです。

コロナが明けたら、まだまだ暫く、「北酒場」の替え歌「北ドーム」の歌詞にある、「バットを振れば拍手がおこる。チップでもファールでも」「絡まる足もほどけぬままに駆け出し こける」野球を涙しながら笑いながらご一緒できると思っていたのに、重ね重ね残念でなりません。

何だか申し訳ないところですが、同年代の私は、もう少し、日弁連野球、そのお仲間とお付き合いさせていただきます。どうか優しくその笑顔でお見守り下さい。

合 掌

# 井口先生の思い出

横浜マリナーズ

三浦 修

井口先生とは同期同クラスというご縁で、横浜マリナーズを代表して、井口先生へのメッセージを述べさせていただきます。

修習中の井口先生は、教官とさして議論ができるほど優秀というだけでなく、その明るい性格でまわりにはいつも人が集まる人気者で、まさに、6組のスターでした。

お互いに弁護士になってからは、神戸と横浜に別れて、全国大会、三港対抗等で何度も対戦しました。彼は、打撃はいつも4番で、若手が台頭してもクリーンアップは外れていなかったと記憶しています。守備では、当初はセンター、その後はキャッチャーが中心でした。センターから全体に大きな声で指示をしている姿とか、キャッチャーとしてマウンドに内野手を集めていろいろ指示を伝えている姿が印象深く、神戸でもスターなんだなあといつも感心して見ていました。

対する私は、選手としての存在感を示す場面はほとんどありませんでした。ただ唯一平成12年の名古屋の全国大会での神戸戦で、最終回に代打で出て、井口先生の守るセンター前に同点打を打ったことが自慢です。あとで彼から、「三浦さん、やりましたね。」と声をかけてもらったときは本当に嬉しかった。

私が監督を務めた期間にも試合で会っていたはずですが、残念ながらあまり記憶が残っていません。次に彼と会ったのは札幌で開催されたマスターズ大会の時でした。私は、かみさん孝行も兼ねて、夫婦で参加しました。大会では、自分のプレーで精一杯で彼のプレーは覚えていませんが、試合後の懇親会で、彼は、私達に気を遣っていろいろ話しかけてくれました。おかげで妻もリラックスでき、いまでも井口先生の話になると、妻はこの時の彼のやさしい気遣いを感謝しています。

とりとめもなく、井口先生との思い出を述べてしまいましたが、最後に、井口先生が亡くなられたあとに分かった、驚きの事実で、私のメッセージをおわりにしようと思います。

令和4年8月24日の「井口先生お別れ会」に参加しました。その時の、中央大学野村修也教授の弔辞が素晴らしかったので、中央大学で野村教授の授業を聴いて感激したと言っていた長男にこうラインを送りました。「いま同期の井口先生のお別れの会で神戸に来ているが、野村教授が、素晴らしい弔辞を読まれたよ。」

するとなんと驚愕の返事がきました。「えっ井口先生？井口寛司先生？私の白鴻会の先輩のお父さんだ。亡くなられたのか。」「ええっ！」びっくりしました。井口先生とこんなご縁があったのか。もっともっと前に知っていれば、井口先生ご一家と私と長男とで一席設けてこのネタで

盛り上がったのに、と実に残念でなりません。

いつか石橋伸子先生、井口奈緒子先生とご一緒に、この不思議なご縁を楽しみながら四人で食事をする機会があればなあと考えています。

以 上

## 神戸チームで一番の選手

大阪弁護士野球団 橋 田 浩

井口さんは、俊足、好打、強肩・堅守のプレーヤーで、神戸チームと対戦するときには最も注意した選手でした。

歳は私がひとつ上で、大学では同学年だったようですが、あの規模ですのでまったく面識はなく、私が平成3年に大阪で登録し、対戦するようになって知り合いました。その後は専ら野球での付き合いでしたが、たくさん良い対戦ができたと思っています。打者井口に対して私が持っていた印象は、センターを中心とした強いゴロか鋭いライナーが多く、それが間に飛べば左中間や右中間を破られるというものでした。また投手として対戦する際には、ストレートを狙ってくるという印象で、いかにこの狙いを外すかを意識していました。また出塁されると走ってこられるので、その点にも注意を払う必要がありました。

対戦するようになって何年かしたころ、神戸チームが得点力を上げるためでしょうか、コーチにつかれたのか、チームの多くがバスターの形、それも通常バスターと違って最初の構えで極端にバットを縦に構えるという特殊な形をとった時期がありました。神戸チームの中でこの構えを最もうまく習得されたのが井口さんで、この構えから何度か痛打を浴びたように思います。

守りでは当初はセンターを守られていたと思いますが、外野手井口は守備範囲が広く、肩も強いやっかいな選手でした。その後キャッチャーに転向されましたが、捕手井口は盗塁を刺せるキャッチャーがほとんどいなかった当時では出色の存在で、やはりやっかいな存在でした。箕・井口、幸寺・井口のバッテリーから盗塁するのはなかなかたいへんでした。

井口さんは野球を良く知っておられ、かつ、とても冷静に試合を見ておられたと思います。どこでの大会であったかは忘れましたが、大阪と神戸がともに出場した全国大会の準決勝くらいで大阪は東京と対戦し、多分1点差で負けた試合がありました。2アウト1、3塁の場面であたりそこねの緩いゴロがショート前に飛び、1塁への送球が間に合わず内野安打となり、その間に3塁走者が生還し、これが決勝点になりました。このとき私はセカンドを守っていたのですが、反射的に1塁方向に送球のカバーに動きました。しかし、このときの正解は2塁ベースに入ることでした。1塁送球よりも2塁送球の方が、アウトが取れる可能性が僅かですが高かったケースで、

まさにそのとおりの結果になりました。試合後、スタンドで観戦されていた井口さんとすれ違ったときに「あれミスやったな」と一言声をかけられました。チーム内でも私の判断ミスに気付いた者はいなかったので、井口さんからの一言を聞いて、冷静に試合を見ているなあと感心したことを覚えています。

あと、井口さんといえばやはり懇親会での藤本さんとの名コンビでの替え歌の数々です。私が聞いたものは、神戸チームの悲哀を歌ったものが多かったように思いますが、その時々の場合に適した、懇親会で受ける歌詞を考えられる能力にいつも感心させられていました。神戸が出場しない全国大会の懇親会でも聞けたあの名コンビの替え歌がもう聞けないと思うと残念で仕方ありません。

プレーヤーとしての実力に加えて、弁護士野球の醍醐味のひとつである懇親会を盛り上げる力を総合して、井口さんは神戸チームで一番の選手であったと私は思っています。

井口さんは1年あまり闘病されたと伺っています。たいへんしんどい思いをされたと思いますが、今はその苦痛からも解放され、別の世界であのすがすがしい笑顔でまたプレーされているものと思います。私はまだ現役選手ですのでまだそっちには行きませんが、ずっと先になります私がそっちに行った際には、マスターズ大会で1度だけ実現したバッテリーを組めたらたいへんうれしく思います。

お疲れ様でした。そして、いろいろな思い出をありがとうございました。

## **井口先生の思い出**

京都弁護士会野球部

弁護士 武田 信裕

井口先生は、私とは同世代でもあり、日弁連野球大会の予選で全国大会出場をかけて競い合った好敵手でした。

全盛期の井口先生は、勝負強いバッティングと強肩捕手として神戸チームを背負い、京都チームの前に立ちはだかり、また同じ予選ブロックのライバルであった大阪チームに何度も苦杯をなめさせる痛快な活躍をされていたことを覚えています。

寛投手とのバッテリーでは、投手よりも速い球(?)で返球されていたことが印象に残っています。また、近年では、マスターズ大会で同じチームで楽しくプレーさせていただきました。

ハンサムで、優しく、ユーモアに溢れ、運動神経もよく、仕事もできる、しかも努力を怠らない、まさに非の打ち所のない方でした。

ご存命であれば、まだまだ色々な方面でご活躍されていたことと思います。それだけに余りに早いご逝去は残念でなりません。

ご遺族、ご友人の皆様のご悲嘆は、察するに余りあるものがあります。心より哀悼の意を表するとともに、故人のご冥福をお祈り申し上げます。



## ドルフィンズ・メンバーからのメッセージ

姫路の弁護士の吉田竜一です。

この度は「井口寛司選手を偲ぶ会」のご案内をいただき、ありがとうございました。

井口先生は4 1期神戸修習、私は4 2期神戸修習で、当時は2年修習であったため、実務修習が重なる時期があり、井口先生と面識を持つようになりました。

修習時代から、期が下である私たちにも気さくに話しかけてくれる優しい先生でした。

1年遅れで神戸弁護士会（当時）に弁護士登録をして、ドルフィンズで数年間、活動を共にさせて頂く時期がありました。

あまり戦力にならなかった私と違い、大して強くもなかったドルフィンズを全国区に押し上げた原動力が井口先生、箕先生、そして幸寺さん、藤掛さんたちであったことは、当時のドルフィンズを知る人間であれば誰でも知っていることだと思います。

戦力にならない私の方は、数年でドルフィンズの活動から離れてしまい、井口先生とお会いする機会もほとんどなくなってしまいました。

この間、ずっと元気にご活躍されていることと当然のように思っておりましたので、訃報に接したときは本当に啞然としてしまいました。

ぜひ、偲ぶ会に参加させていただき、井口先生の思い出を皆さんと語り合いたいところなのですが、実は、私自身の体調が必ずしも万全ではありません。

会の途中で体調を崩すようなことがあると、ご迷惑をお掛けしてしまうこととなりますので、残念ながら会への出席は見合わせていただきます。

本当に申し訳ありませんが、どうぞよろしくお願い致します。